

Art & Art

vol.35
文/川岸 徹

話題の美術展と、
日本国内の美術館から、
とっておきの作品を
1点ずつ紹介します。
今月は文化勲章を
受章した2人の
現代日本画の巨匠を。

東

山魁夷、高山辰雄、平山郁夫、加山又造、大山忠作

。戦後の日本画壇を支え、その功績により文化勲章を受章した5人の現代日本画家。この5人の

作品を集めた展覧会「五星山展」が10月12日から、福島県の二本松市大山忠作美術館で開催される。

展覧会の実行委員長を務めているのが、故・大山忠作画伯の長女で女優として活躍する大山采子（芸名・一色采子）さん。

「福島県は原発事故の影響が大きいく、いまだ震災の収束には至っておりません。父の故郷でもある福島県のために何かできることはなにかと考えたときに、『展覧会に行く』という復興支援もあると思いついたんです。そこで先生方のご遺族に連絡したところ、ご厚意により作品を貸し出していただけることになりました」。

そう話す大山采子さんの父、大

山忠作は65年にわたる画業生活に

おいて、花鳥、風景、人物など多彩な作品を発表。日展の理事長、

会長職を歴任し、2006年には文化勲章を受章している。

「東京美術学校（現・東京藝術大学）に入学しましたが、学徒出陣のために練り上げ卒業。マニラで、あわや戦死という体験をしたそうです。復員後は「一度は捨てた命だから、好きなことをやりたい」と、ただひたすら絵ばかりを描いていました。父は「好きこそもの

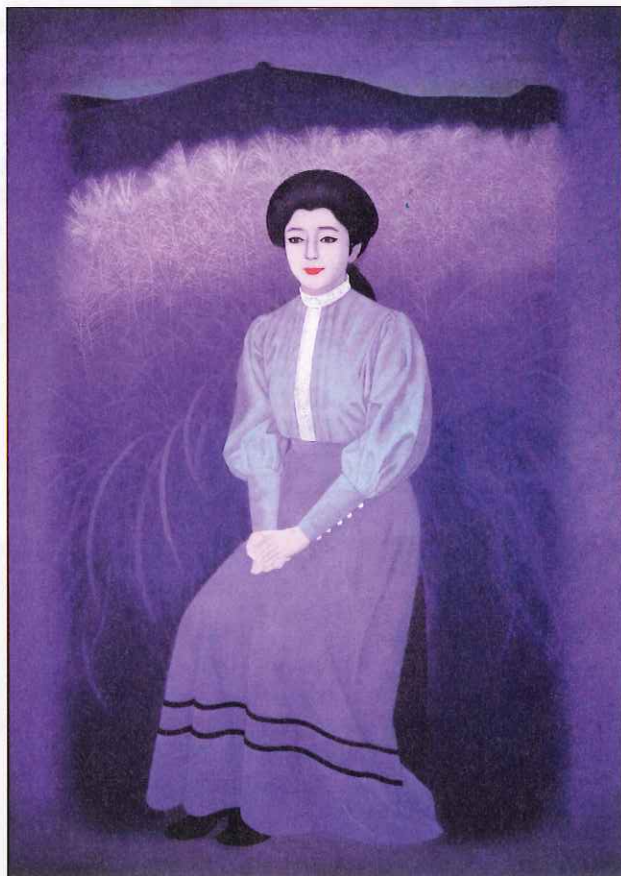
の上手なれ」を体現した画家だったと思います」（大山さん）。

代表作の一つ「智恵子に扮する有馬稲子像」は、1976年に新橋演舞場で上演された舞台「智恵子抄」の主演女優、有馬稲子を描いた作品。背景には故郷・福島県

の名峰、安達太良山の情景が表され、幻想的な色調と相まって心地

いい余韻を与えてくれる。

被災地・福島を代表する画家 大山忠作の麗しき人物画



美術展 の 1点

文化勲章受章画伯による心の復興支援
「五星山展」

大山忠作 『智恵子に扮する 有馬稲子像』

紙本著色/1976年/二本松市教育委員会蔵

●文化勲章受章画伯による心の復興支援

「五星山展」

10月12日～11月17日

二本松市大山忠作美術館

福島県二本松市本町2-3-1

二本松市市民交流センター3階

☎0243・24・1217

開館時間/9時30分～17時

※入館は閉館の30分前まで

会期中無休

観覧料/一般400円